

NEWS LETTER

2020.10
vol.47 No.1

What's New

「全面改修 浜松医科大学 スマート・ライブラリ」

「新体制・副学長の紹介」

ICTを活用した、
Society 5.0型図書館誕生！



7つの
ステキを
大発見!

全面改修 浜松医科大学 スマート・ライブラリ

令和2(2020)年附属図書館は、福利施設棟と合わせて全面改修が行われ、新たにスマート・ライブラリとして生まれ変わりました。スマート・ライブラリとは、今野学長の命名によるもので、図書だけでなくICTを活用して、ネット上の情報入手、国際情報発信機能も備えた24時間滞在できるSociety5.0型の新しい図書館のことです。魅力満載の新しい図書館から厳選した7つのステキをご紹介します。



ここはどこ?

ステキ
1

窓から見える
景色がステキ!

図書館の窓際には、外の景色を見渡せる閲覧席が用意されています。窓の外に目をやれば、森の木立の木漏れ日や、歴史のロマンを感じる古墳群など様々な景色を楽しむことができます。座席に座ったら、ぜひ外の景色を眺めてみてください。



脳を鍛えるには運動?

ステキ
2

ボルダリングウォールがステキ!



松門会ホールには日本の大学図書館初?のボルダリングウォールが設置され、初級から上級までの6コースがあります。ポップな色彩のホールは気分も空間も明るくしてくれます。学修や読書に疲れたら、脳のリフレッシュに、肩こり解消に、ボルダリングにチャレンジ!

ステキ
3

あなたも動画マスター

スタジオがステキ!

本格的な動画撮影が可能なスタジオです。防音設備、ライトや編集機器、記者会見でおなじみの大学のマークが入ったスクリーンなどが設置されています。24時間いつでも都合のいいときに利用することができます。授業の動画や、研究活動、クラブ活動や学生生活の様子など、撮影してガンガン配信しましょう!



ステキ
4

お気に入りの場所は?

いろんな椅子や机がステキ!

図書館の机や椅子は、同じものが並んでいるのではなく、高さも座り心地も色もバラバラ。机についている照明もそれぞれ。あなたのお気に入りの組み合わせを見つけて下さい。



ステキ
5

ゆったりお昼寝?

くつろぎコーナーがステキ!



ゆったり横になって本が読みたい、なんて要望をかなえるのが、くつろぎコーナーです。ベンチになったり、ごろ寝ソファになったり、自由自在に形を変えるソファでまったりしてはいかがですか?

がっつり集中からみんなでワイワイ

ステキ
6

個室やコラボレーション
エリアがステキ!



集中したいという方のために、個室を提供しています。ここには、人間工学に基づいて設計されたシステムチェアが導入されていて、自分の研究室にしたいという先生方もいるほど。アクティブラーニングのためのコラボレーションエリアはグループの人数にあわせて、組み合わせ可能な座席や、議論を進めるためのホワイトボード、公開で授業やゼミが可能なコミュニケーションスペースなど整備されています。静粛からみんなでワイワイと用途に応じたエリアがゾーニングされています。

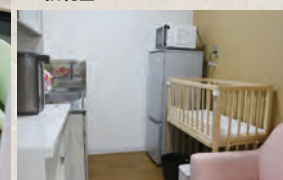
多様性への配慮

ステキ
7

授乳室やダイバーシティ
スペースがステキ!



ダイバーシティスペース
授乳室



図書館には、国際化推進センターが隣接されています。図書館は、障害のある方、外国の方など様々な方が利用します。そのような方のために、車椅子専用の座席、拡大鏡、授乳室や宗教上の配慮のできるダイバーシティスペースが設置されています。

図書館の様々な魅力を紹介してきましたが、整備にあたっては、卒業生をはじめとした多くの方の多大なるご援助により、実現が可能となりました。ここで改めて御礼申し上げます。まだ紹介しきれていないステキがたくさんあります。また今後も、

臨場感あふれる国際会議ができる会議室などを引き続き整備する予定です。本学の方だけでなく、卒業生、一般の方もご利用いただけるので、ぜひこの機会にスマート・ライブラリに足をお運びください。

トピックス 1-3

- トピックス1 全面改修 浜松医科大学 スマート・ライブラリ
- トピックス2 新体制・副学長の紹介

研究最前線 4

- 世界初:注意欠加多動症へのドバミンD1受容体と神経炎症の関与が明らかに

新任職員の紹介 5-8

主催学会・シンポジウム 8

- 第93回日本内分泌学会学術総会

講座・研究室紹介 9

学会賞等受賞 10

お知らせ 10

- 桂林医学院(中国)、中国医科大学から医療用マスク等の寄贈
- 医学科5年次生に静岡県警より感謝状贈呈

海のむこうで 11-12

- 日米医学協力プログラムがんパネルに参加して 11
- HOPEでの留学 12

大学ニュース 13-20

- 各種行事 13-14
- サークル活動の記録 15
- サークル紹介 16
- 国家試験合格状況 17
- 第114回医師国家試験大学別合格状況 17
- 令和2年度入学者選抜試験実施状況 18
- 平成31(令和元)年度卒業生・修了生の進路状況 19
- 留学生の紹介 20

卒業生は今 21-22

- 患者さんの気持ちを知る 21
- 子どもの目線から看護を見る、発信する 22

表紙の写真

豊かな人間性と智力を有した国際基準の医療人を生育するSociety5.0型の新図書館(浜松医科大学スマート・ライブラリ)

令和2年8月撮影



新体制の紹介

新任の副学長がメンバーに加わり、令和2年度がスタート！

学 長 今野 弘之

理事・副学長

教育・産学連携担当 山本 清二

企画・評価担当 渡邊 裕司

理事・事務局長

財務担当 田中 宏和

理 事

経営担当(非常勤) 晝馬 明

監 事

(非常勤) 西山 仁
村本 淳子

副学長

教育改革担当 梅村 和夫

情報・広報担当 梶村 春彦

研究担当 北川 雅敏

病院担当(病院長) 松山 幸弘

産学連携・知財担当 緒方 勤

学長特別補佐

国際化促進担当 福田 敦夫

副学長の紹介



教育改革担当
梅村 和夫

令和元(2019)年度に医学教育分野別評価を受審し、多くの改善点を指摘されました。それらに基づいてカリキュラム改革を進めていきたいと思ひます。皆様のご協力・ご指導をよろしくお願いいたします。



情報・広報担当
梶村 春彦

抱負を述べるにはあまりにスペースが限られておりますが、新しくすばらしい器ができていますので、コンテンツを使い倒すつもりで、専門性からも、独自性からも21世紀の国際研究拠点に相応しい知的環境をつくっていきたく思ひます。



研究担当
北川 雅敏

科学の発展は研究者の能力と多様性に依存しています。よって、特に若手研究者や独創的研究の支援に力をいれていきます。一方で研究戦略室による分野横断的なプロジェクトの立案／推進を実行し、本学の先端研究の発展に資したいと考えております。お力添えをいただけたら幸甚です。



病院担当(病院長)
松山 幸弘

コロナ禍の中、日々の診療に従事していただき、誠にありがとうございます。現在コロナ第2波が押し寄せてきておりますが、全職員が一丸となってコロナ対応を行ってきたことで院内感染もなく、現在も通常の医療、そして学生教育も滞ることなく行うことができております。これも皆さまのご理解とご協力のおかげだと心から感謝しております。



産学連携・知財担当
緒方 勤

令和元(2019)年度から「産学連携・知財活用推進センター」が発足し、その担当をしております。本学の知的財産活動や産学官連携を介して、教育・研究・臨床と共に、本学の発展に貢献したいと思ひます。宜しくお願い致します。

世界初：注意欠如多動症への ドパミンD1受容体と神経炎症の関与が 明らかに

<研究の概要>

本学精神医学講座(山末英典教授)と本学先端医学教育研究センター生体機能イメージング研究室(尾内康臣教授)は、浜松光医学財団、浜松ホトニクス株式会社、浜松医療センターとの共同研究にてPositron Emission Tomography(PET)装置を用いて、注意欠如多動症(attention-deficit/hyperactivity disorder: ADHD)におけるドパミンD1受容体と神経炎症を反映する活性化ミクログリアの変化と両者の相互関係、さらにこれらのPETの結果がADHD症状の重症度と関連することを見出し、英科学誌ネイチャー系医学誌「Molecular Psychiatry」に公表しました。

<研究の背景>

ADHDは注意の続きにくさや落ち着きのなさを症状とする発達障害の1つで、一般人口の約5%の方が診断されると報告されています。最も治療効果があるメチルフェニデートという薬において体の成長や心臓や血管への影響が懸念されていて新しい治療薬が望まれていました。ADHDには注意や覚醒に関係するドパミンの関与に加え、脳内の炎症も関わっていることが推測されていました。しかしドパミンが結合する受容体のサブタイプの中で、ADHDに特徴的な注意や計画性の障害に関連するドパミンD1受容体と、脳内の炎症を担う主な細胞である活性化ミクログリアの関係について、ADHDを対象とした報告はこれまでありませんでした。そこでADHDの方の脳内のドパミンD1受容体と活性化ミクログリアの関係についてPETを用いて調べました。

<研究の成果>

本研究ではADHDと診断された方24名と定型的な発達を示す方24名に協力頂き、PETを用いて脳内のドパミンD1受容体と活性化ミクログリアの結合能(密度・活性を反映した指標)の変化を調べ、ADHDの症状との関係を調べました。その結果、定型的な発達の方と比べてADHDと診断された方では、脳の中でも注意や感情の制御に重要とされる前部帯状回でドパミンD1受容体の結合能が低下し、情報の一時的な保持や計画性に関わる背外側前頭皮質や、衝動性の制御に重要な眼窩前頭皮質で、活性化ミクログリアの結合能が上昇していました(図1)。更に、これらの脳部位での結合能の変化はADHDの重症度に関係していました(図2)。具体的には、前部帯状回のドパミンD1受容体の結合能が低いほど落ち着きのなさが顕著で(図2A)、背外側前頭皮質の活性化ミクログリアの結合能が上昇しているほど、素早く正確な作業が困難で不注意も目立っていました(図2B、C)。また眼窩前頭皮質の活性化ミクログリアの結合能が上昇しているほど、素早く正確な作業が困難という関係も認めました(図2D)。そしてADHDの方では、背外側前頭皮質と眼窩前頭皮質でドパミンD1受容体の結合能の変化と活性化ミクログリアの結合能の変化がお互いに関係していることが分かりました(図3)。



精神医学講座 助教

横倉 正倫

図1 ドパミンD1受容体と活性化ミクログリアのPET画像の例

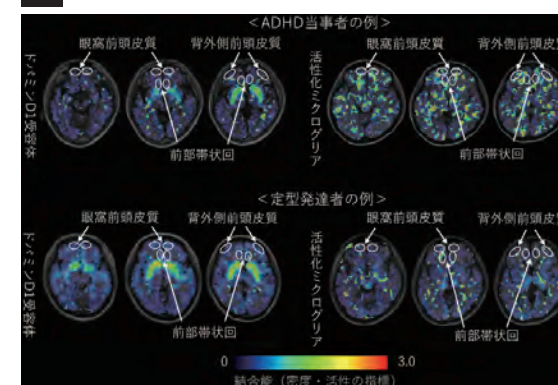


図2 ドパミンD1受容体結合能と活性化ミクログリア結合能とADHD症状の相関関係

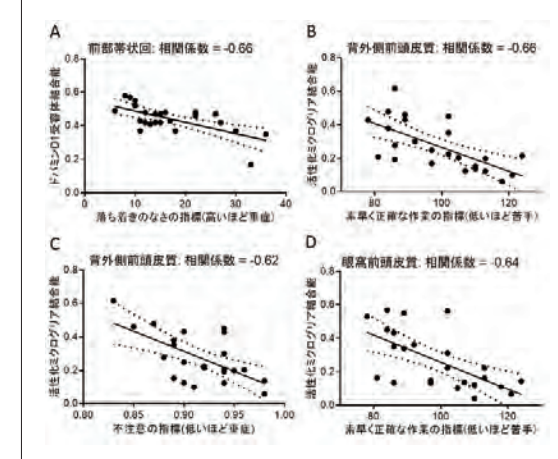
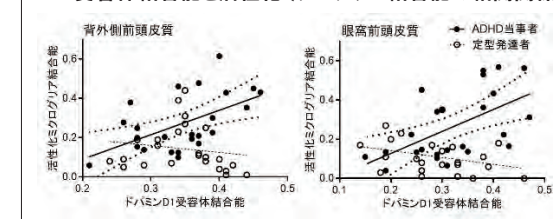


図3 背外側前頭皮質と眼窩前頭皮質でのドパミンD1受容体結合能と活性化ミクログリア結合能の相関関係



<今後の展開>

今回の研究から、ドパミンD1受容体と活性化ミクログリアがADHD症状の重篤さに関わり、更に両者の相関関係がADHDの方だけで見出されたことから、新しい治療法の開発につながる事が期待されます。

NewStaff Introduction



脳神経外科学講座 教授
黒住 和彦

令和2(2020)年5月1日付で脳神経外科学講座教授を拝命いたしました。

私は岡山県岡山市で生まれ育ち、平成9(1997)年に岡山大学医学部脳神経外科学教室に入局いたしました。国内留学では札幌医科大学分子医学研究部門にて遺伝子治療の研究を、海外留学ではオハイオ州立大学にて、腫瘍溶解ウイルスの研究、カダバーラボでの手術トレーニングなどを経験いたしました。岡山大学では鏡視下手術を中心とした脳腫瘍の臨床、遺伝子治療をメインとした橋渡し研究、海外留学などのグローバル人材育成を行ってきました。

ここ静岡県で、臨床力、研究力、教育力の三つを兼ね備えた脳神経外科医を育成していく所存です。臨床については、4K内視鏡を用いたトルコ鞍部近傍腫瘍に対する鏡視下手術、グリオーマの覚醒下手術、ゲノム医療などを行っていく予定です。また、研究面では遺伝子治療関連のトランスレーショナルリサーチに力を注ぎたいと考えています。教育面では英語教育にも力をいれながら、グローバル人材育成を進めていきたいと思っています。浜松医科大学の発展に全力で取り組み、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【専門分野】皮膚免疫・炎症



皮膚科学講座 教授
本田 哲也

令和2(2020)年4月1日付で皮膚科学講座の教授を拝命いたしました。私は平成12(2000)年に京都大学医学部を卒業し、同大学の皮膚科学講座へ入局、以後、アトピー性皮膚炎や乾癬など、主に皮膚免疫・炎症性疾患について臨床・研究を行ってまいりました。そしてこの度、浜松医科大学皮膚科学講座の第四代の教授として浜松にまいりました。浜松という地は、歴史的にも創意工夫の姿勢を重視し、様々な創造を行ってきた、とても先進的風土をもつ地域と聞いております。また本学皮膚科学講座も、

そのような土地柄を反映し、臨床面・研究面ともに様々な新知見を世界に発信してきた、伝統と実績のある講座であります。今回、縁あってこの浜松の地で皆様とご一緒に働けますことを非常に嬉しく思っております。当講座の診療、研究の良き伝統を受け継ぎ、さらに時代に合わせてそれらを発展・新展開することで、静岡県の地域医療を支え、日本・世界の皮膚科学の発展に貢献し、そして次世代を担う皮膚科医の養成に、真摯に取り組んでまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

【専門分野】新生児学



地域周産期医療学講座
(寄附講座) 特任教授
飯嶋 重雄

令和2(2020)年4月1日付で地域周産期医療学講座の特任教授を拝命いたしました。出身は神奈川県川崎市ですが、本学入学を機に浜松の地を踏み、卒業後は本学小児科学講座に入局しました。その後は新生児学を専門に診療を行ってききましたが、現状に満足できずあちこちの病院を転々とし地に足がつかない状態が続いていました。そんな折、小児科学講座の緒方教授に声をかけていただき、平成24(2012)年に静岡県からの寄附講座である地域周産期医療学講座に着任するに至りました。当講座に与えられた使命

は、医学生や若手医師に卒前教育、卒後研修、さらには専門医養成教育を提供し、周産期医療に従事する医師を育成することです。自分を磨くことばかり考えて生きてきた私に人を育てるという新たな生き方を与えていただきました。

その後は徐々に新生児診療の研修体制が整い、本学で研修を受けた若手医師が県内の各病院で新生児医療を支えるようになってきました。しかし、まだまだ充足には至りません。ひとりでも多く静岡県の周産期医療に貢献できる人材を輩出するよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。



形成外科 特任教授
中川 雅裕

令和2(2020)年5月1日付けで形成外科の特任教授を拝命いたしましたのでご挨拶申し上げます。私は平成3(1991)年に愛媛大学を卒業し、すぐに東京大学形成外科に入局しました。その後は関連病院や関連大学である群馬県立がんセンター、自治医科大学、埼玉医科大学などで熱傷や顔面・四肢外傷、小児先天異常、難治性皮膚潰瘍や瘻孔、悪性腫瘍切除後の再建などの手術を行ってきました。特にマイクロサージャリーを用いた頭頸部再建や乳房再建の手術を多く行ない、平成14(2002)年の静岡県立静岡がんセンターの立ち上げから18年間、形成

外科部長を務めました。これまでマイクロサージャンの育成に力を注いできましたが、浜松医科大学ではさらに学生教育や臨床教育に力を入れたいと考えています。臨床治療においては静岡県内の多くの病院の形成外科や他の診療科とも協力する治療体制を整えつつあります。また、浜松の地は「ものづくりのまち」として地域全体であたらしいものを創る気質にあふれていますので、浜松の企業などと協力して新しい医療機器を開発したいとも考えています。何卒よろしく願いいたします。



基礎看護学講座
(健康科学) 准教授
山下 寛奈

令和2(2020)年4月1日付で基礎看護学講座(健康科学)准教授を拝命いたしました。平成12(2000)年に本学看護学科を卒業後、そのまま本学大学院に進学し、器官組織解剖学講座(旧解剖学第一講座)の佐藤康二教授のご指導の下、神経科学や組織学等を学びました。博士課程修了の半年後に本学看護学科の助手として採用していただき、看護学科の渡邊泰秀前教授の下で心室筋細胞のチャネルに対する薬理作用の研究や、近年は看護学科の三浦克敏教授の下で超音波顕微鏡を用いた皮膚の硬さの研究を行ってきました。

教育では、看護学科の生理学、解剖学、生化学などを担当しております。臨床経験が短かったのですが、助手・助教時代に臨地実習の担当教員として病棟に行かせていただいたことがさらに臨床を知る貴重な経験となりました。看護の視点によるこれらの科目の教育を日々模索しております。研究・教育に努力する所存ですので、今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



地域看護学講座
(公衆衛生看護学) 准教授
山本 真実

令和2(2020)年1月1日付で地域看護学講座(公衆衛生看護学)の准教授を拝命いたしました。私は、お茶の産地で知られる菊川市で生まれ育ちました。静岡県の市町村、愛知県の市町村で保健師として勤務し、名古屋大学大学院博士後期課程にて学位を取得しました。前任校である岐阜県立看護大学では、主に母子保健や学校保健に関する科目を担当し、保健師や養護教諭の育成に携わって参りました。このたび地元である静岡県で、公衆衛生看護学に関わる教育研究の機会を頂いたことを心から嬉しく思っています。私の主な研究テーマは、「継続的な子育て

支援」「自閉症スペクトラムのある子どもとその家族への支援」であり、このテーマは、保健師時代、親子が紆余曲折を経ながら絆を深めていく姿に心を打たれたという経験に基づいています。最近では、保健師と親との対話に注目した子育て支援について研究を進めています。

今後は、人々の健康生活上の課題に柔軟に対応できる保健師の育成、静岡県の保健活動の充実に少しでも貢献できるよう精進して参ります。ご指導、ご鞭撻をどうぞよろしくお願い申し上げます。

NewStaff Introduction



地域看護学講座 准教授
鳥本 靖子

【専門分野】地域看護学

令和2(2020)年6月1日付で地域看護学講座(在宅看護学領域)の准教授を拝命いたしました。着任に際し、多くの方々から温かいご配慮を頂き大変感謝しております。

私は大阪市出身で、大阪大学を卒業後、同大学院で修士課程を修め、東京都台東区役所に保健師として就職しました。介護保険開始年で、当時、全国より高齢化の進んだ都心の在宅高齢者支援に試行錯誤の連続でした。その後、米国Emory大学公衆衛生大学院へ留学し、帰国後、大学や研究財団で教育研究に携わり、東京医科歯科大学大学院の博士課程を修了しました。

研究テーマは主に在宅要介護高齢者の家族介護者支援から地域包括ケアシステムの課題や医療的ケア児と家族への支援の研究に広がりました。誰もが病とともに生きる時があり、そして老いていきます。暮らしの中で療養生活者をいかに支えるかを浜松の地で多様な側面から教育・研究を通じて貢献できればと思っています。

着任して2か月ですが、本学学生は素直でポテンシャルが高いと感じています。過渡期にある看護学ですが、学生達が世界を見据え、小さくても社会を動かす人材となるよう思考を巡らせています。至らぬ点多々ありますが、どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



医用動物資源支援部 准教授
高林 秀次

【専門分野】実験動物学

令和2(2020)年4月1日付で医用動物資源支援部の准教授を拝命いたしました。平成14(2002)年に動物実験施設にきて、今年で早18年になります。私は生まれも育ちも浜松なので、人生のほとんどを浜松で過ごしていることになります。研究の世界で生きていこうと思った時には、まさか、故郷に戻って仕事ができるとは思っていませんでしたが、幸運にも前任の加藤秀樹先生と恩師の静岡大学の野口基子先生のおかげで、こうして故郷で好きな研究ができています。私は実験動物学が専門で、特に突然変異マウスの遺伝子及び表現

型の解析を行っています。この分野はこの数年で劇的な技術革新がありました。ゲノムプロジェクト、次世代シーケンサーの進歩、そして、最近のゲノム編集技術の出現。特に、私が開発にかかわったi-GONAD法はゲノム編集動物の作製を画期的に簡便にし、これまで作製に1年以上を要していたノックアウトマウスの作製をわずか1か月程度で可能にした方法です。この開発に関わったのは野口研の大先輩である鹿児島大学の佐藤正宏先生のおかげでした。研究においてはヒトとの出会いが大変重要です。今後も人との出会いを大切にしたいと思っています。



周産母子センター 准教授
内田 季之

令和2(2020)年2月1日より周産母子センター准教授を拝命いたしました。平成7(1995)年に福井医科大学(現:福井大学)を卒業し、2年間福井医科大学医学部附属病院産婦人科(麻酔科、救急部を含む)を研修した後、2年半ほど福井県済生会病院産婦人科で勤務し、平成11(1999)年夏より私の伯父である寺尾俊彦が勤務していた浜松医科大学産科婦人科にお世話になっております。大学院、関連病院を経て、平成21(2009)年より浜松医科大学産科婦人科で勤務しています。

平成21(2009)年以降は、当時の金山尚裕教授、伊東宏晃准教授に指導していただきました。特に金山教授からは光医学を利用した分娩時

胎児モニタリングの研究、伊東准教授からは妊娠・分娩管理、産科手術、産後異常出血の管理について叩き込まれたお陰で、研究では日本産科婦人科学会などのシンポジウム発表、産科手術でも招請講演に多く呼んでいただけるようになりました。よき指導者に恵まれ、とても感謝しています。

今後、当院の周産母子センターは生まれ変わり、機能強化棟にMFICU(母体胎児集中治療室)3床が増設されます。教わった技術を専攻医に伝え、静岡県周産期医療に貢献したいと思っています。何卒よろしくお願いいたします。



産婦人科地域医療学講座(寄附講座) 特任准教授
鈴木 一有

【専門分野】周産期医学

産婦人科地域医療学講座(寄附講座)の特任准教授を拝命いたしました。私は平成2(1990)年に本学を卒業し、産婦人科学講座に入局させていただきました。その後、川島吉良先生、寺尾俊彦先生、金山尚裕先生、伊東宏晃先生と4代にわたる歴代教授の先生方のご指導のもと臨床、研究を行ってまいりました。研究面では、浜松ホトニクス株式会社様との共同研究にて、近赤外線分光法の周産期領域への導入を行ってきました。この方法により、母体脳組織の酸素化状態を簡便に把握することができるようになりました。今後は、危機的産科出血時などの母体の新しい管理法

として、近赤外線分光法が確立されるように研究をすすめてまいります。本講座のもう一つの目的は、産婦人科医などの人材育成および地域医療の充実です。日本では全国的に産婦人科医不足が指摘されています。特に妊娠・分娩にかかわる周産期領域ではそれは顕著であり、静岡県でも産婦人科医不足解消が長年の課題であります。浜松医科大学は静岡県唯一の医師養成機関であり、静岡県の地域医療を支える人材を育てる責務があります。本講座では、若手医師には臨床研修を通して、医学生および看護学生には、講義・教育および臨床実習を通して、産婦人科の魅力

主催学会 シンポジウム

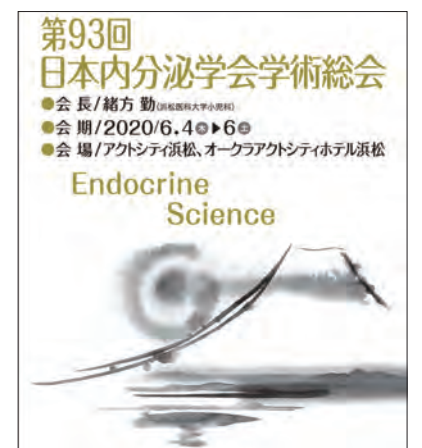
symposium

第93回日本内分泌学会学術総会

小児科学講座 教授 緒方 勤

第93回日本内分泌学会学術総会を主催いたしました。本学術集会は、当初令和2(2020)年6月4日から6日までの3日間、アクティシティ浜松・オークラアクティシティホテル浜松において開催の予定でしたが、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大を受けて、7月20日から8月31日までWEB開催となりました。日本内分泌学会学術総会を小児内分泌医が主催するのは初めてですし、「Endocrine Science」をテーマに掲げ、基礎的な内容を多く取り込んだ内容にしたいと思っておりまして、正直、残念な気持ちはありますが、

WEB開催という新しい企画に携わり、感謝しております。また、プログラムを組む過程では、プログラム委員長である名古屋大学糖尿病内分泌内科学の有馬寛教授、本学内分泌・代謝内科、地域家庭医療学講座の沖隆前特任教授はじめ多くの方にお力添えを頂きました。これは私にとって、とても嬉しい経験でした。幸い、WEB開催のプログラムは順調に進んでおり、今後の学術集会のあり方を示すような成果が得られそうです。私自身、このWEB開催を楽しみたいと思っています。



講座・研究室

紹介

Department・Laboratory
Introduction



Ⅰ 医生理学講座

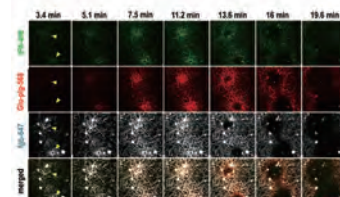
どんな研究をしていますか？他の講座にはない特徴を教えてください

本講座では「血栓形成と溶解機構」を研究しています。生理学では「血液」分野はマイナーですが、生体機能を解析する生理学の本道を行くと自負しています。血液が固まる凝固反応と溶解（線維素溶解：線溶）反応は別の経路として研究されてきましたが、実は巧妙に相互作用し止血のための血栓形成・維持とともに血流維持に寄与しています。当初は線溶系因子の構造と機能の解析、炎症や悪性腫瘍等様々な病態への関与を主に解析していました。最近はイメージング手法を用いて凝固と線溶の時空間的な調節機構を解析しています。両系には実に多くの血液因子が関わっていますが、これらに血流と血管内皮細胞が加わり協調して機能しています。まさにオーケストラの各パートあるいは各団

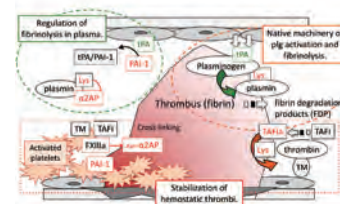
員が巧みに調和し、各状況に応じて名曲を奏でているようです。この様な「しくみ」を見ると、各病態時に無理やり各パートの不調和を是正する様な介入治療は行わず、「指揮者」に耳打ちし、全体を是正してもらうのが宜しい様に思えてきます。いえ、講座員一同はまじめに「しくみ」を研究し「正常化」を議論しており、その成果も真面目に報告しております。またこれまで国際線溶学会、日本生理学会（神経生理と共催）を主催しました。巧みな「しくみ」の解析と想像力の育成に興味のある方、一緒に研究しませんか。（浦野哲盟記）



基礎配属の学生と一緒に。



活性化血小板を起点とした凝固系に活性化に伴うフィブリン（白）形成と、同部位へのtissue plasminogen activator（緑）とプラスミノーゲン（赤）の集積による溶解開始機転。（Brzoska T et al, TH, 2017）



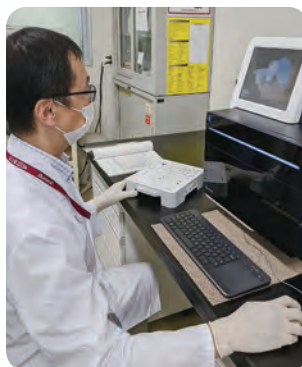
線維素溶解（線溶）の時空間的調節機構。（Urano T et al, JTH, 2019）

Ⅱ 臨床検査医学講座

どんな研究をしていますか？

臨床検査現場で出た、既知の知見では説明のつかない異常値や遺伝子の変化などを、分析と病態という2つの側面からアプローチして解決する姿勢を大切にしています。具体的な研究テーマとしては、遺伝子解析技術に関する研究、個別化治療のためのがんゲノム医療に関する研究、個別化予防

を目指した遺伝性腫瘍診療開発、マイクロサテライト不安定性などの疾患マーカーに関する研究、臨床検査で得られた未知の血清酵素異常や遺伝子バリエーションなどの多様性の意義の解明、薬剤耐性を起こす小型コロニー形成細菌のオミクス解析、がんと脂質代謝に関する研究など、多彩です。



次世代シーケンサーを用いた遺伝子解析の様子。

他の講座にはない特徴を教えてください

臨床検査医学として取り扱う学問領域が臨床化学、遺伝子検査学、臨床微生物学、血液検査学、臨床免疫学、臨床生理学、バイオインフォマティクスと、非常に広いのが特徴です。この環境に身を置くことで視野が自ずから広がるため、複数の領域にまたがる独創的な研究テーマが次々と出てきます。逆にこれらの領域に関連する診療科や基礎医学分野も多いことを考えると、どのような研究も臨床検査医学につながっているといえます。



臨床検査現場で活躍する附属病院検査部の臨床検査技師は大切な仲間です。

PRIZE WINNERS 学会賞等受賞

令和2年1月1日～令和2年7月31日

賞の名称	受賞年月日	受賞者	受賞内容(研究題目)
第64回日本リウマチ学会 総会・学術集会 秀逸ポスター賞	令和2年 4月23日	第三内科 医員 古川 省悟	リウマチ・膠原病におけるサイトメガロウイルス再活性化因子に関する検討
第64回日本リウマチ学会 総会・学術集会 秀逸ポスター賞	令和2年 4月23日	第三内科 医員 大久保 悠介	シェーグレン症候群におけるMRシアログラフィーの意義
第15回日本医学シミュレーション学会 学術集会 優秀演題賞	令和2年 5月25日	大学院医学系研究科 (博士課程)4年 麻酔・蘇生学講座 佐藤 恒久	ラット 人工心肺モデル研修の教育効果
第68回日本輸血・細胞治療学会 学術総会 村上奨励賞 (海外学術集会発表部門)	令和2年 5月27日	輸血・細胞治療部 臨床検査技師 古牧 宏啓	Optimum DTT concentration and treatment time for CD38 inactivation on RBCs analyzed by a newly-devised flow cytometric antibody binding assay.
2020年度日本薬学会 東海支部学術奨励賞	令和2年 7月4日	薬剤部・薬剤主任 山田 尚広	病態下の薬物代謝変動予測に基づく抗真菌薬療法の適正化に関する研究

※「受賞者」に記載の所属は、発表した当時の所属になります。

NEWS

桂林医学院（中国）、中国医科大学から医療用マスク等の寄贈



令和2(2020)年5月11日(月)に桂林医学院、中国医科大学から本学へ新型コロナウイルス感染拡大防止のための医療用マスク等の寄贈を受けました。国境を超えた絆は本当に素晴らしく、マスク等の医療物資が不足している中で貴重なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。とともに、いただいた物資は本学の医学教育の場において学生・教職員への援助に広く活用させていただきました。

医学科5年次生に静岡県警より感謝状贈呈

令和2(2020)年8月12日(水)浜松中央警察署にて、医学科5年次生小島 彩友美さんに静岡県警より感謝状が贈呈されました。

小島さんは、少年の立ち直り支援活動を支援する「大学生サポーター」として、非行や犯罪被害等の問題行動を抱える少年に勉強を教える活動を数年に渡り積極的に行ったことが認められました。

小島さんは活動に参加した感想として、「地域ぐるみで子どもを見守っているということがわかりました。日本語を話せない少年への対応等苦勞したこともありましたが、活動を通して地域とつながりができ、非常にいい経験をさせていただきました。医師となったときにこの経験を活かしていきたい。」と語っていました。



日米医学協力プログラム がんパネルに参加して

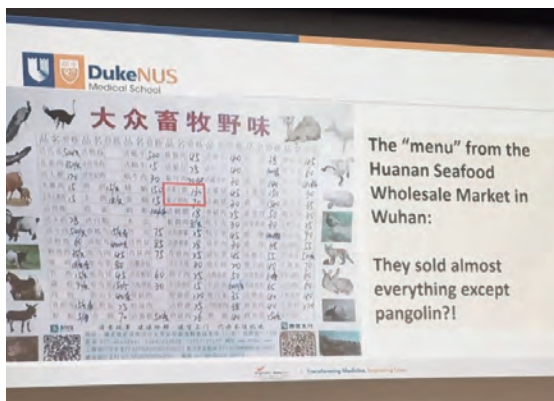


腫瘍病理学講座 教授
梶村 春彦



▲ バンコクのreclining budda 。ワット・ポーの涅槃仏です。

令和2(2020)年の2月23日から2月28日にかけて、バンコク(タイ)で開催された、日米医学協力プログラムに参加して参りましたので報告します。この日米医学協力プログラムについては平成28(2016)年1月にワシントンで50周年記念が行われた際の報告が永田年教授からあり、その概要については <https://www.niaid.nih.gov/research/us-japan-cooperative-program-organization-history> に説明があります。日米で協力して世界のあるいはアジアの医学的問題に取り組むという趣旨からいっても、もともと感染症分野が大きなウエイトを占めているのですが、がんの部会(Cancer Panel)というもあり、わたしはそのCancer Panelのメンバーなのでこのところ毎年参加しております。昨年はハノイで行われましたが、北朝鮮と米国のトップ会談が行われたホテルとかち合うという状況になり、急遽会場が変更になったり、ものものしい警備のなかホテルに出入りしたりで、得難い経験をしました。両者の顔の描かれたTシャツを買ってきました。今年もスリランカでの開催予定でしたが、直前にホテルでテロがあり、また急遽開催地がバンコクに変更になりました。毎年なにかことが起こる会ではあります。今年は、そうこうするうちに蔓延しているウイルスがまさに牙を剥くころでありまして、最後まで開催も参加もあやぶまれました。Cancer Panel(代表は清野裕 国立がん研究センター分野長)では毎年、感染症関連がん、炎症関連がんなどといったtopicが話されること



▲ 武漢の海鮮市場で売られている野生動物のリストと値段。演者は一時話題になったpangolin(センザンコウ)についてもコメント

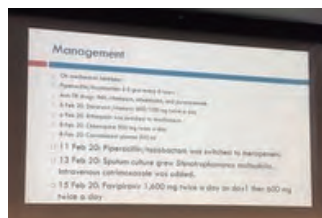
が多いのですが、私が座長(柴田龍弘 東京大学医学研究所教授と共同)をしたのはEBV associated gastric cancerのsessionで、本学でも共同研究をされている方がおられる千葉大学の金田教授のグループや、東北医科薬科大学の神田輝教授の研究を拝聴・議論しました。

时期的に、武漢の状況がひどいところで、また、本邦でもクルーズ船におこった感染で苦心していた直後でもありますので、渡航を見合わせたグループも日米ともにありました。しかし、なにせ、毎年EIDつまりemerging infectious diseaseのsessionがあるので、まさに超専門家の見解がきけるのではないかとという期待もあり、参加することにしました。

タイは、デング熱など感染症のコントロールには軍をはじめ、慣れているように見受けられ、マスクとアルコールkitが配布され、会場に入場するたびに非接触型の体温計で測定、平熱の場合はシールをシャツのえりに貼るというシステムでした。少人数のmeetingでありましたので会場は密ではなかったと思います。興味深かったのは、シンガポールにいるコウモリのRNAウイルスの専門家Wang Lin-Fa博士(英語中国語がわかる)が、武漢に入り込んで情報収集をした話でした。コウモリのRNAウイルスの専門家というのがいるのかと多少驚きましたが、引退していないこの分野の研究者が僕だけだったから呼ばれたんだよ というような言い方をしていました。pangolin(センザンコウ)など、報道された可能性のある中間宿主の話もありましたが、

11月末あたりの最初の1,2例は話題になっていた海鮮市場の関係者ではないこと(写真1)と、現在の中国の医療技術のレベルを反映するものとして、100万くらいの小都市(中国ではvery small)の自治体病院(アカデミアでもセンターでもない)の医師が、興味をもった症例を次世代シーケンスにかけて、ウイルスを2週間である程度まで同定している という事実を印象深く話していました。彼のLancetのcommentがでたばかりでもありtimelyでありました(From Hendra to Wuhan: what has been learned in responding to emerging zoonotic viruses, Lancet Feb11, 2020 [https://doi.org/10.1016/S0140-6736\(20\)30350-0](https://doi.org/10.1016/S0140-6736(20)30350-0))。また、ちょうどタイで初期の重症化例がでたところで、その臨場感あふれるcase presentationもありました(写真2,3)。また、日本側も毎年fundingをしていただいているAMEDの方が日本の取り組みについても紹介するという段取りがありました。担当の園田さんには毎年大変お世話になっています。

残念なことに、Covid-19の状況は好転しておりませんが、感染症対策の基礎となる技術、研究者の層の厚さ、対応の早さなど、むしろ学ぶことも多かった会でありました。



▲ (写真2) タイの救急症例の経過診断がつく前にさまざまな検査、抗生物質の治療などをして苦闘したあとが見られる



▲ (写真3) 陽性が判明したX-p

海のむこうで

Beyond the Sea

HOPEでの留学



医学部医学科5年
島田 清子



▲ 左よりスイスからの留学生の友人、留学生、筆者



▲ 左: 研究室にてお世話になった准教授 右: 筆者

令和元(2019)年12月(CBT・OSCE試験終了からポリクリ開始までの休み期間)の1か月間、IFMSA(International Federation of Medical Students' Associations 国際医学生連盟)の交換留学制度で研究室留学をしました。浜松医科大学の中では、国際交流サークルHOPEがIFMSAの団体として活動しています。

【研究について】

ウィーン医科大学口腔生物学部で"search for natural synthetic compounds that can lower the inflammatory response in vitro"プロジェクトに参加しました。歯周病の炎症にてNrf2(転写因子)がICAM-1(免疫細胞)の抑制に関わるかを調べるために、Nrf2ノックアウトマウスを解剖・骨髓細胞の培養、PCRでの増幅、データの解析を行いました。1度でしたが、Nrf2がICAM-1の抑制に関わることを示すデータを得ることができました。培養やPCRなど3年次の基礎配属時の生化学研究室での経験があったことは大きかったです。研究室はインターナショナルで、ラボ内での公用語が英語で助かりましたが、その自分を含め様々な国の英語が飛び交っており、"RNA"が聞き取れないなど、初めはやりとりに苦戦しました。



◀ 研究棟

▲ 研究室

【自分の目標】

「言葉も含め全く違う環境に踏み込むこと」「積極的にコミュニケーションを取ること」をこの留学の目標として挙げました。1か月と短い期間でしたが、初めは言葉も行動も思い通りにいかないことも多く、辛い時もありましたが、後悔したくないと積極的に活動しました。その中で現地の学生との交流では、互いの国の歴史や医師の制度、日頃の勉強などを話することができ、とても刺激になりました。



▲ 寮の友達とのカウントダウンパーティーにて

【HOPEについて】

はじめにHOPEについて少しお話ししましたが、交換留学制度では留学生を受け入れた人数分、浜松医科大学から留学生として送り出します。受け入れでは、多くの研究室(研究留学)や講座(臨床実習留学)に留学生の受け入れをお願いし、協力して頂いています。それぞれの講座で出会う先生方や学生に送迎会を開いてもらったり家に招いて頂く留学生もあり、彼らはとても嬉しそうにその話をしてくれます。また、主にHOPEの

学生が留学生のヘルプをし、SP(Social Program)で留学生と食事や花火を見るなどの交流を行っています。今回の留学で、私は以前に臨床留学で脳神経外科学講座に受け入れて頂いた留学生との再会を果たしました。スイスに会いに行き、3日間家族で案内してくれ、本当に素敵な思い出になりました。彼女は浜松で一緒に遊んだことなどを、大変良い思い出として覚えていました。自分も今回の留学で、現地の学生や先生方がしてくれたことに感動しました。改めて日本に来てくれた留学生が良い時間を過ごせるようにしてあげたいと思いました。そして、世界中に友人ができることは純粋に嬉しく、つながりの大切さを感じます。

【最後に】

今回の留学で感じたことは、踏み出すことの大切さです。全く知らない環境に行くことは緊張しますが、少しだけ、自分を変えるチャンスだと思います。医学部のカリキュラムの中で留学のチャンスを見つけるのは大変ですが、どこかで行ける時に行く! 楽しめるだけ楽しむ! という姿勢が、今このような状況だからこそ大事だと思います。HOPEの制度や大学の選択ポリクリなどで検討頂ければと思います。

また、このような留学ができているのは、日頃から大学として受け入れに協力して頂いているからです。浜松医科大学全体として、留学生にとって良い留学の場となり、輪をつなげていけるよう努力していきたいです。

今回の留学に係わって頂いた全ての方に、この場をお借りして心から感謝申し上げます。

3月

3月12日(木) 入学者選抜試験

令和2年度浜松医科大学入学者選抜試験
(後期日程)を実施しました。

3月16日(月) 学位記授与式

令和元年度学位記授与式を行い、医学部182名(医学科122名、看護学科60名)、大学院医学系研究科博士課程22名、修士課程15名および論文博士7名に学位記を授与しました。



3月27日(金) 永年勤続者表彰式

永年勤続者表彰式が行われ、永年にわたり医療並びに本学の教育に貢献された27名の方々に表彰状と記念品が授与されました。



令和2年度
4月



4月9日(木) 入学式(略式)

新型コロナウイルス感染症の発生状況を鑑み、感染拡大の防止という観点から、令和2年度浜松医科大学入学式(略式)を本学体育館において開催しました。医学部181名(医学科114名、医学科2年次編入学4名、看護学科60名、看護学科3年次編入学3名)、大学院医学系研究科博士課程32名、修士課程15名および博士後期課程3名を迎え、計231名が入学しました。



4月21日(火) 全国医学部長病院長会議 (東海・北陸ブロック会議)

令和2年度全国医学部長病院長会議(東海・北陸ブロック会議)を、当番校である本学で開催しました。今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、WEB会議に開催方法を変更し、東海・北陸ブロックの10大学の医学部長、学長及び病院長が出席しました。

4月27日(月)～ 新入生オリエンテーション

新型コロナウイルス感染症の発生状況を鑑み、新入生オリエンテーション講話の動画を本学オンデマンドに掲載しました。



6月

6月9日(火)～ 第1回 浜松医科大学 産連・知財セミナー

新型コロナウイルス流行に伴い、浜医学修支援システムによるWEB開催となりました。
1. 産学連携・知財活用推進センターの紹介、2. 知的財産の基礎知識、研究開発段階における知的財産マネジメント、研究開発グループ内の知的財産トラブル回避について、3. 学内の特許に関する手続き、ラボノートを活用、MTA等の手続き方法についての計3つの動画によるセミナーでした。



6月28日(日) 専門研修プログラム説明会

本学医工連携拠点棟で実施しました。1日目、2日目の研修医合わせて63名の来場があり、興味のある専門領域について研修担当医師と個別に話し合うことができる絶好の機会となりました。

6月24日(水) 動画・写真コンテストの表彰式

第1回動画・写真コンテストの表彰式を行いました。動画・写真コンテストは、浜松医科大学オンデマンドへの投稿増加、新たな浜松医科大学の魅力の再発見を目的として令和元年度新たに開催したものです。動画11作品、写真24作品の応募の中から、それぞれ最優秀賞1作品、優秀賞2作品が選ばれました。

7月



7月20日(月)～ 8月31日(月) Webオープンキャンパス2020

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、オープンキャンパスをWebにて実施しました。
また、Webを利用した個別相談会(医学科・看護学科・大学院修士課程助産師養成コース)を実施し、授業や実習を担当している教員(看護学科・助産師養成コース)や入試課職員に直接相談・質問ができる機会を設けました。

9月

9月7日(月) 若手卓抜研究者 称号授与式

若手卓抜研究者制度は、本学学内研究プロジェクト(若手研究支援事業)において特に優れた研究提案を行い、大型の競争的資金の採択が強く期待される申請者に対し「若手卓抜研究者」の称号を授与する制度で、令和2年度に創設されました。

令和2年度
若手卓抜研究者紹介(2名)

ベナー聖子(精神医学講座 特任助教)
田村 和輝(イノベーション光医学研究室 助教)

9月28日(月) 学位記授与式

大学院医学系研究科博士課程5名、論文博士2名に学位記を授与しました。



サークル活動の記録

令和元(2019)年度(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

準硬式野球部	●静岡県2部リーグ 春季 3位 ●秋季 2位 ●西日本医科学生総合体育大会 ベスト16
男子硬式テニス部	●東海地区国立大学体育大会 4位 ●西日本医科学生総合体育大会 2回戦進出 ●静岡県学生テニス選手権大会 シングルス 優勝、ダブルス ベスト8
女子硬式テニス部	●東海医歯薬科学生大会 3位 ●東海地区国立大学体育大会 3位 ●西日本医科学生総合体育大会 4位
軟式テニス部	●春季東海医歯薬科学生大会 男子個人 ベスト16 ●西日本医科学生総合体育大会 男子個人 3回戦進出 ●秋季東海医歯薬科学生大会 男子個人 ベスト16、ベスト32
男子バスケットボール部	●近畿中国四国医科学生バスケットボール大会 出場 ●春季東海医歯薬科学生大会 3位 ●西日本医科学生総合体育大会 ベスト8 ●秋季東海医歯薬科学生大会 出場
女子バスケットボール部	●春季東海医歯薬科学生大会 出場 ●五大戦 出場 ●西日本医科学生総合体育大会 出場 ●秋季東海医歯薬科学生大会 出場
男子バレーボール部	●冬季東海リーグ 3位 ●秋季東海医歯薬科学生大会 4位 ●新人戦 準優勝
女子バレーボール部	●近畿医療系女子バレーボール大会 出場 ●西日本コメディカル学生体育大会 出場 ●西日本医科学生総合体育大会 出場 ●新人戦 3位
バドミントン部	●西日本医科学生総合体育大会 女子団体 ベスト8 ●女子ダブルス ベスト32 ●男子シングルス ベスト64 ●東海医歯薬科学生大会 男子シングルス ベスト16、ベスト32 ●女子シングルス ベスト16、ベスト32 ●男子ダブルス ベスト8、ベスト16 ●女子ダブルス ベスト32
サッカー部	●春季東海医歯薬科学生大会 準優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 ベスト8 ●秋季東海医歯薬科学生大会 準優勝
ラグビー部	●東海北陸医歯薬系大学ラグビーフットボール大会 優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 出場
ハンドボール部	●西日本医科学生総合体育大会 ベスト16 ●関西東海医歯薬科学生ハンドボール秋季リーグ2部リーグ 3位
剣道部	●東海地区国立大学体育大会 出場 ●中部医歯薬剣道大会 男子団体 準優勝 ●男子個人 優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 出場 ●西日本コメディカル剣道大会 男子個人 8位
空手道部	●西日本医科学生総合体育大会 形 5位 ●組手個人 ベスト8、ベスト16 ●組手女子団体 4位 ●西日本コメディカル学生体育大会 組手 準優勝 ●東海地区国立大学体育大会 男子団体 4位 ●女子団体 4位 ●女子新人戦 3位 ●和道会静岡県空手道競技大会 組手女子個人 2位 ●和道会東海空手道競技大会 組手女子個人 2位、3位 ●しずおかスポーツフェスティバル 組手男子個人 3位、ベスト8
ヨット部	●浜名湖小春セーリングレース出場 ●西日本医科学生総合体育大会 総合 4位 ●浜名湖チャンピオンシップレース 個人 優勝 ●浜名湖で行われるヨットレース運営ボランティア ●三ヶ日青年の家 救急救命講座ボランティア ●艇庫付近へ地域住民使用可のAEDの設置
漕艇部男子	●静岡県選手権競漕大会 一般男子舵手付きフォア 優勝 ●一般男子ダブルスカル 2位 ●近畿医科学生漕艇選手権大会 一般男子舵手付きフォア 5位 ●一般男子ダブルスカル 6位 ●新人男子舵手付きフォア 優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 総合 4位 ●一般男子舵手付きフォア 10位 ●新人男子舵手付きフォア 優勝
漕艇部女子	●静岡県選手権競漕大会 一般女子舵手付きクォドルプル 優勝 ●近畿医科学生漕艇選手権大会 一般女子舵手付きクォドルプル 優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 総合 4位 ●一般女子舵手付きクォドルプル 3位
ゴルフ部	●西日本医科学生総合体育大会 団体 13位 ●個人 7位入賞

弓道部	●中部ブロック医科学生弓道大会 女子団体 準優勝 ●男子個人 3位、5位、6位 ●女子個人 4位、5位 ●東海地区国立大学体育大会 女子団体 3位 ●女子個人 準優勝 ●静岡県下学生弓道選手権夏季大会 男子団体 準優勝 ●女子団体 優勝 ●男子個人 3位、4位、5位 ●西日本医科学生総合体育大会 女子団体 3位 ●東海医歯薬科学生弓道大会 女子団体 3位 ●女子個人 4位
陸上競技部	●関西医科学生対校陸上競技選手権大会 男子5000m 8位 ●男子走高跳 5位 ●男子三段跳 5位、8位 ●女子4×100mリレー 6位 ●女子走高跳 優勝、3位 ●女子砲丸投 優勝、5位 ●女子総合 4位 ●女子フィールド 総合優勝 ●東海地区国立大学陸上競技会 男子3000mSC 6位 ●男子三段跳 6位 ●静岡県陸上競技選手権大会 女子棒高跳 準優勝 ●西日本医科学生総合体育大会 男子10000m 8位 ●男子走高跳 3位 ●男子三段跳 8位 ●女子砲丸投 6位 ●全日本医歯薬獣医学大学対校陸上競技選手権大会 男子走高跳 8位 ●第62回東海陸上競技選手権大会 女子棒高跳 4位 ●大塚博幸第80回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子棒高跳 出場 ●関西医歯薬科学生対抗陸上競技大会 男子400m 8位
水泳部	●中部学生短水路水泳競技大会 出場 ●東海地区国立大学体育大会 出場 ●中部学生選手権水泳競技大会 出場 ●西日本医科学生総合体育大会 出場 ●西日本コメディカル学生水泳競技大会 出場 ●中部学生秋季水泳競技大会 出場 ●中部学生春季水泳競技大会 出場
卓球部	●西日本医科学生総合体育大会 出場
合気道部	●昇級審査にて級位の取得 ●昇段審査にて段位の取得 ●医大祭にて演武
スキー・スノーボード部	●寛仁親王記念第43回丘のまびえい宮様国際スキーマラソン 12位
美術部	●医大祭ステージ看板制作 ●医大祭にて創作品展示
茶道部	●医大祭にてお茶会開催
邦楽部	●医大祭での演奏会開催
四つ葉	●浜松筋ジストロフィーの患者さんとの交流会の実施 ●清明祭(児童養護施設)でクリスマス会開催
軽音楽部	●サクラクライブ ●新歓ライブ ●医大祭ライブ ●クリスマスライブ
管弦楽団	●第39回定期演奏会(アクトシティ 中ホール) ●本学附属病院等でのコンサート ●本学入学式、学位記授与式、解剖体慰霊祭、医大祭における演奏
東洋医学研究会	●第52回東百会へ参加、発表 ●ソムラ漢方セミナー参加
奇術部	●こどものあそびば「LIMOLIMO(りもりも)もりた」でのマジックショー ●本学附属病院院内マジックショー ●広沢小学校マジックショー ●医大祭でのマジックショー
つながり(ぬいぐるみ病院)	●保育教育の実施 初生小学校、みどり保育園、若宮こども園、都田南小学校で実施 ●医大祭にて子どもたちに「お医者さん体験」をしてもらう模擬診療を実施
つながり(SCORAはままつ)	●東京Rainbow Pride(LGBT関連イベント)に参加 ●第38回思春期学会にて活動の一部を紹介 ●ゆずりは学園、横原高校、西遠女子学園にてピアエデュケーション(出張授業)実施
囲碁将棋部	●日本将棋連盟浜北支部 浜北商工会・会長賞獲得戦 A級 3位
国際交流サークルHOPE	●臨床留学での留学生2名受け入れ ●基礎研究留学での留学生4名受け入れ
うなぎの会	●亀井道場の学生幹事として勉強会を運営
災害支援サークルLuce	●ウェルシズンでの新生入生へのBLS講習会のサポート ●避難所体験参加 ●本学附属病院防災訓練参加 ●浜松北区de祭りにてブース出展 ●周辺地域へ「はまいちゃんプロジェクト」と題した講習会・勉強会実施

バドミントン部

Badminton Club

設立

昭和50(1975)年5月

部員数

64名

活動日程

週3日(月・金・土)、木曜日は自主練



バドミントン部の活動について

こんにちは、バドミントン部です。

浜松医科大学のバドミントン部は、男女仲良く、多くの人数で楽しく練習をしています。イベントも盛りだくさんで、特に夏は流しそうめん、火花大会、肝試し、バーベキューなどが行われ、先輩後輩問わず交流しています。

練習日について、週3日、その他に自主練の時間もあるため、たくさん練習したい人、ゆるくバドミントンを楽しみたい人でも入部が可能です。練習には、OBOGの方々も顔を出してくれるので、アドバイスをもらうことができます。また、バドミントンは大学からでも始めやすく、大学始めの人が多いことも特徴の1つです。



医学部医学科3年

宇久 知輝

CLUB Introductions サークル紹介

浜松医科大学災害支援サークルLuce

Disaster support Club「Luce」

設立

平成23(2011)年10月

部員数

60名

活動日程

月2回以上の不定期開催



浜松医科大学災害支援サークルLuceの活動について

「過去に学び 未来に備え 今に活かす」

浜松医科大学災害支援サークルLuceは、災害や救急に対する見識を高め、ボランティアなどの実践を通して災害時に自発的に活動することを目標とする医療系サークルです。2011年の東日本大震災を契機に発足し、本年度で10年目を迎えます。この10年で東日本大震災や熊本地震をはじめ、台風19号などの水害や目下の新型コロナウイルス等、私たちの生活を著しく脅かすような災害が多く発生いたしました。こうした災害についての知識や現場の状況を深く掘り下げて理解することで、これから起こりうる災害に備え発信していくこそが我々の使命であると考えております。



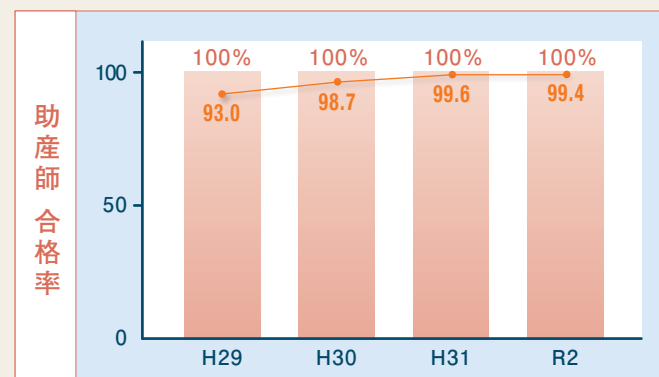
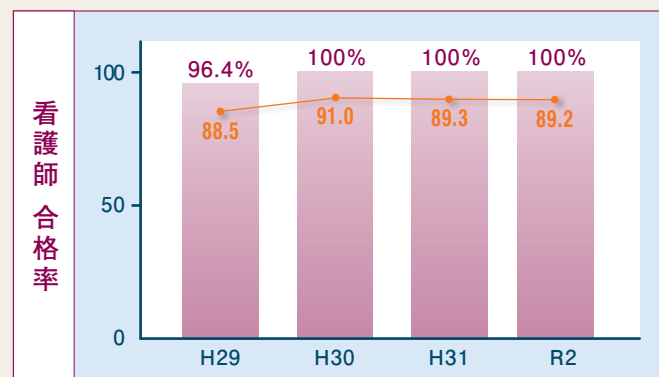
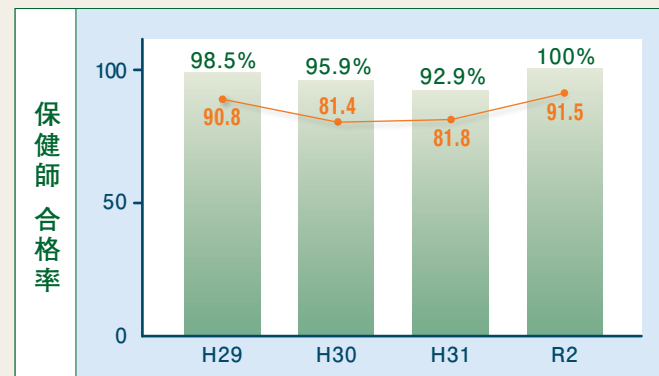
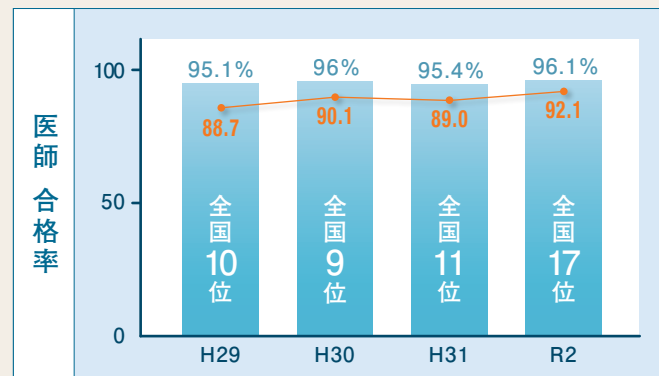
医学部医学科3年

武藤 誠彦

経験者の方が有利ではありますが、大学始めでも経験者を倒す人がいたり、大会の上位まで勝ち上がる人もいます。

大会については、大きなものとしては、7～8月の西医体、11月の東海医歯薬、3月の近畿東海大会があり、これに加えて県内リーグや東国体などもあります。大会は、自分の力を試す場だけでなく、他大学との交流の場でもあり、浜松医科大学に限らず交友の輪を広げることができます。

浜松医科大学のバドミントン部は、試合でいい成績を残すことだけでなく、楽しく仲良くバドミントンすることを大切にしています。恵まれた環境で練習できることに感謝しつつ、部員一同、一丸となって努力していきたいと思います。



■ ■ ■ ■
 合格率(既卒を含む)
 ●
 全国平均合格率(既卒を含む)

第114回医師国家試験大学別合格状況

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
1	自治医科大学	120	120	100.0%
1	大阪医科大学	108	108	100.0%
1	産業医科大学	103	103	100.0%
4	順天堂大学医学部	128	127	99.2%
5	東京医科歯科大学医学部	111	109	98.2%
6	和歌山県立医科大学	104	102	98.1%
7	兵庫医科大学	118	115	97.5%
8	山梨大学医学部	114	111	97.4%
8	日本医科大学	114	111	97.4%
10	近畿大学医学部	113	110	97.3%
11	日本大学医学部	133	129	97.0%
12	秋田大学医学部	128	124	96.9%
12	横浜市立大学医学部	98	95	96.9%
12	大阪市立大学医学部	97	94	96.9%
15	川崎医科大学	116	112	96.6%
16	千葉大学医学部	134	129	96.3%

(既卒を含む)

順位	学校名	受験者数	合格者数	合格率
17	浜松医科大学	128	123	96.1%
18	名古屋市立大学医学部	100	96	96.0%
19	埼玉医科大学	147	141	95.9%
20	岐阜大学医学部	117	112	95.7%
20	慶應義塾大学医学部	115	110	95.7%
22	聖マリアンナ医科大学	113	108	95.6%
23	福井大学医学部	128	122	95.3%
23	香川大学医学部	128	122	95.3%
25	北海道大学医学部	120	114	95.0%
25	東北大学医学部	139	132	95.0%
25	福島県立医科大学	141	134	95.0%
25	京都府立医科大学	119	113	95.0%
25	奈良県立医科大学	121	115	95.0%
30	富山大学医学部	118	112	94.9%

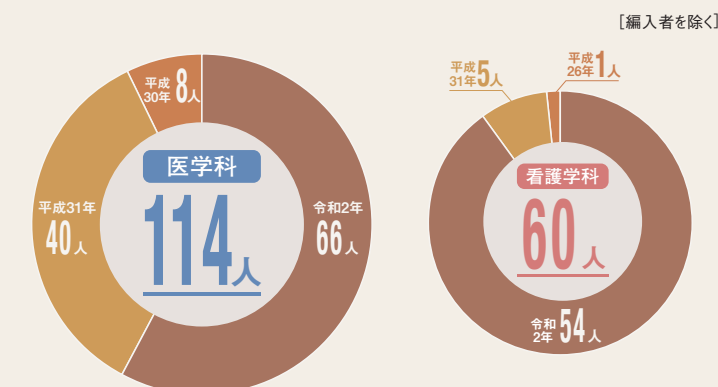
令和2年度 入学者選抜試験実施状況

入学者選抜試験実施状況

学科名	区分 [募集人員]	志願者数	第1段階選抜合格者数	受験者数	合格者数	入学辞退者数	追加合格者数	入学者数
医学科	前期日程 [75]	389 (144)	301 (111)	259 (90)	75 (23)	4 (1)	0 (0)	71 (22)
	後期日程 [15]	221 (90)	150 (59)	25 (10)	18 (5)	2 (1)	2 (1)	18 (5)
	推薦入試 [25]	73 (44)		69 (41)	25 (13)	0 (0)	0 (0)	25 (13)
	帰国子女 [若干名]	1 (0)		1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	私費外国人 [若干名]	1 (0)		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合 計 [115]	685 (278)		354 (141)	118 (41)	6 (2)	2 (1)	114 (40)
	2年次編入学 [5]	117 (42)	39 (11)	36 (11)	5 (0)	1 (0)	0 (0)	4 (0)
看護学科	前期日程 [40]	102 (94)		74 (66)	40 (36)	4 (2)	4 (4)	40 (38)
	推薦入試 [20]	52 (51)		51 (50)	20 (20)	0 (0)	0 (0)	20 (20)
	帰国子女 [若干名]	1 (1)		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	社会人 [若干名]	3 (3)		2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	合 計 [60]	158 (149)		128 (119)	60 (56)	4 (2)	4 (4)	60 (58)
	3年次編入学 [10]	31 (27)		30 (26)	5 (4)	2 (1)	0 (0)	3 (3)

()内数字は、内数で女子を示す。

高等学校等卒業年別入学者状況

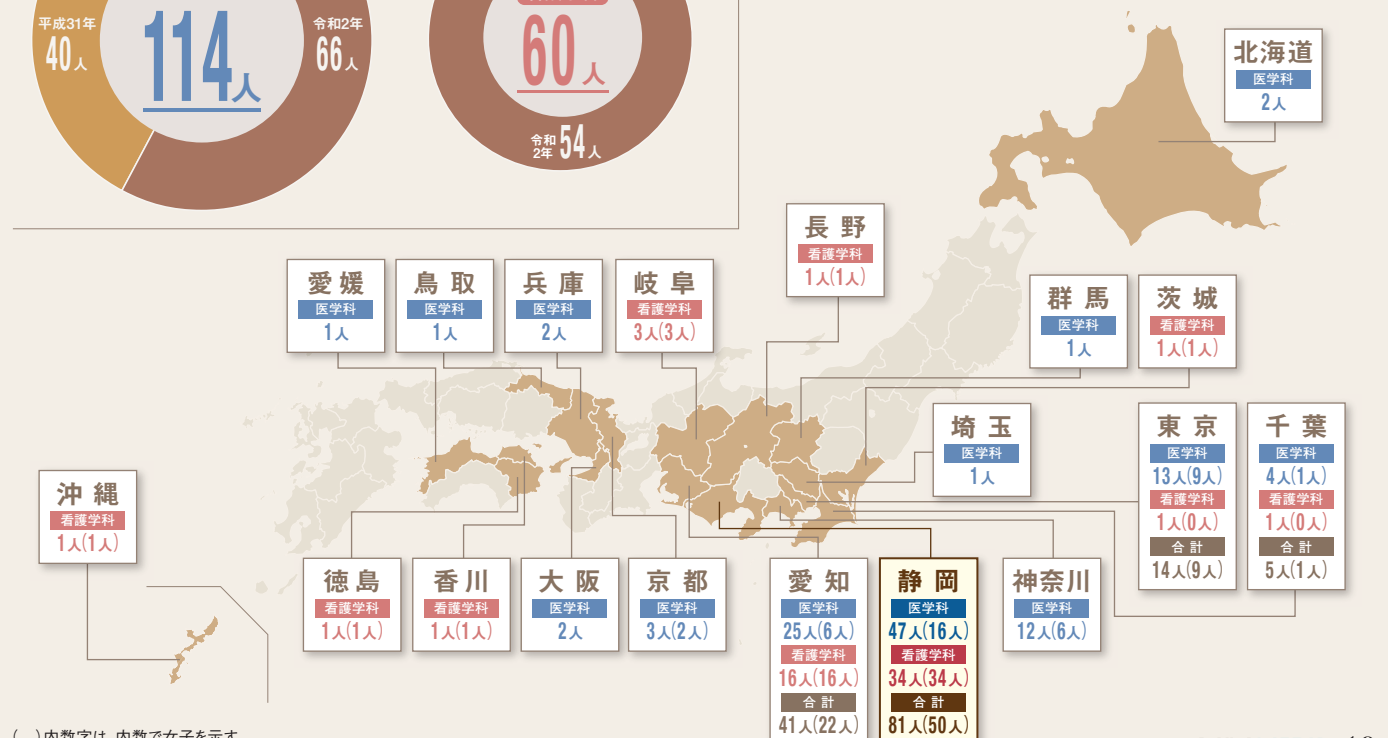


出身高等学校等所在都道府県别入学者状況

医学科 114人(40人) 看護学科 60人(58人)

総計 174人(98人) [編入者を除く]

[編入者を除く]



()内数字は、内数で女子を示す。

平成31(令和元)年度 卒業生・修了生の進路状況

医学科				
就職先等	内 訳	人数	(人)	
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	16	16	
国立大学病院	東京大学医学部附属病院	2	2	
	近畿大学奈良病院	1		
私立大学病院	東京女子医科大学病院	1		4
	慶應義塾大学病院	1		
	昭和大学病院	1		
国立病院	浜松労災病院	1		
	国立国際医療研究センター病院	1		
	東京高輪病院	1		6
	関東労災病院	1		
	中京病院	1		
	和歌山ろうさい病院	1		
	磐田市立総合病院	9		
公立病院	浜松医療センター	9		
	藤枝市立総合病院	8		
	静岡市立静岡病院	5		
	中東遠総合医療センター	5		
	静岡県立総合病院	4		
	焼津市立総合病院	2		
	富士宮市立病院	2		
	豊橋市民病院	1		54
	春日井市民病院	1		
	半田市立半田病院	1		
	中津川市民病院	1		
	東京都立松沢病院	1		
	東京都立大塚病院	1		
	総合病院国保旭総合病院	1		
	川崎市立井田病院	1		
	平塚市民病院	1		
	長野県立信州医療センター	1		

卒業生 122人				
就職先等	内 訳	人数	(人)	
その他病院	聖隷浜松病院	4		
	聖隷三方原病院	3		
	JA静岡厚生連 遠州病院	3		
	静岡赤十字病院	3		
	浜松赤十字病院	2		
	静岡済生会総合病院	2		
	埼玉石心会病院	2		
	横浜栄共済病院	1		
	安城更生病院	1		
	TMGあさか医療センター	1		
	東京通信病院	1		
	名古屋第二赤十字病院	1		
	公立福生病院	1		36
	日本赤十字和歌山医療センター	1		
	戸田中央総合病院	1		
	松波総合病院	1		
	刈谷豊田総合病院	1		
	千葉西総合病院	1		
国家試験不合格	手稲溪仁会病院	1		
	立川病院	1		
	京都第二赤十字病院	1		
	海南病院	1		
	大森赤十字病院	1		
	大阪警察病院	1		
合計 122		4	4	

看護学科				
就職先等	内 訳	人数	(人)	
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	32	32	
国立大学病院	筑波大学附属病院	2	2	
公立病院	磐田市立総合病院	1		
	静岡県立静岡がんセンター	1		6
	静岡県立総合病院	3		
	静岡市立静岡病院	1		
その他病院	河北総合病院	1		
	静岡赤十字病院	1		
	静岡済生会総合病院	1		6
	聖隷浜松病院	1		
	聖隷三方原病院	1		
	名古屋記念病院	1		

卒業生 60人				
就職先等	内 訳	人数	(人)	
県・市役所・健康センター等	浜松市役所	3		
	豊橋市役所	1		6
	聖隷福祉事業団	1		
	全国土木建築国民健康保険組合	1		
企業	一条工務店	1		2
	ブライムアースEVエナジー株式会社	1		
進学	浜松医科大学大学院助産師養成コース	5	5	
不明		1	1	
合計 60				

大学院修士課程助産師養成コース 修了者 5人				
就職先等	内 訳	人数	(人)	
本 学	浜松医科大学医学部附属病院	2	2	
公立病院	浜松医療センター	1		
	名古屋市立西部医療センター	1		3
	東京都立多摩総合医療センター	1		
合計 5				



留学生の紹介

科学と文化の旅 —— 日本での私の暮らし

International Student Introduction

大学院医学系研究科(博士後期課程)2年
医生理学講座

Nitty Skariah Mathews

(ニッティ スカリア マシュース)

出身国

インド



What and where did you study before coming to Japan?

My homeland is in Kerala, a state in south India, famous for its greenery, spices, backwaters and its art forms. I am a doctor who completed my master's degree in pathology in 2014 from Christian Medical College, Vellore (CMC, Vellore) in Tamil Nadu, India. For the next 5 years, I worked in the same institute as a faculty member with a keen interest in haematology and haemostasis. I came to Hamamatsu in the spring of 2019 to pursue Ph.D.

Why did you choose HUSM?

Hamamatsu is a world leader in the field of photonics research and contributes immensely to the industrial and medical applications of technology in this field. When I heard about the Cooperative Major in Medical Photonics, utilizing the advanced imaging technology of Shizuoka University and HUSM's expertise in photonic medical applications, I decided to apply. I was accepted as a graduate student in the department of Medical Physiology under the able guidance of Prof. Tetsumei Urano and his supportive team.

日本に来るまでは

どこでどんな勉強をしていましたか？

私の故郷は、緑、香辛料、バックウォーター(水郷地帯)、そして芸術でも有名な、南インドのケーララ州にあります。私は、インドのタミル・ナドゥ州ペロールのクリスチャン メディカル カレッジで、2014年に病理学の修士号を取得しました。血液学と止血学に強い関心を持ち、その後5年間、同じ大学で職員として働きました。2019年の春に博士課程に進むため浜松へ来ました。

浜松医科大学に来たきっかけは？

浜松はフォトニクス研究において世界をリードしており、この分野での工業・医学テクノロジーの応用に基大な貢献をしています。静岡大学と浜松医科大学の最先端のフォトニクス技術を使った光医学共同専攻について耳にした時、出願しようと決めました。そして大学院生として受け入れられ、医生理学講座で浦野哲盟教授の巧みなご指導の下、先生のチームに支えられながら研究をしています。



▲医生理学講座の浦野哲盟教授、鈴木優子准教授と

研究テーマ、研究の成果はありますか？

病理学者として私は、血液学と止血学の分野における高度なイメージング手法を更に学びたいと思っていました。浦野教授の研究室でマウスモデルでのリアルタイムイメージング技術を学ぶ機会に恵まれ、線維素溶解の体内調節における様々な蛋白質の相互作用を研究しています。この1年で多光子顕微鏡の操作や、研究に使用する遺伝子変異マウスの飼育や管理を行いました。現在は、マウスの血管でのレーザー惹起血栓形成・溶解の力学について研究をしています。

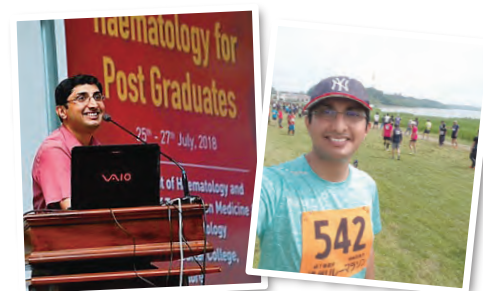
浜松での生活はありますか？

浜松にきて最初に感じたのは、大きな町で見られる喧騒とは対照的に清潔で静かな町だということです。初めは言葉の壁に苦労しましたが、一年経った今、日常生活に必要な会話は何とか出来るようになり、レクチャーや実験、講座や学内の活動で多忙な日々を送っています。そんな中でも、時間がある時には浜松市内やその周辺の観光名所へ出かけたり、連休には他の場所へも足を延ばしたりしています。また時には、何人かの友人と浜松市内のレストランへ行き、様々な料理を楽しんでいます。昨年は浦野教授にお誘いいただき、佐鳴湖国際駅伝大会に参加することができました。今年は新型コロナウイルスの感染拡大のため、私の旅行計画に大きな影響が出てしまい残念です。

spare time, I try to explore places of interest in and around Hamamatsu, and on extended holidays, I try to travel to other places as well. Occasionally, some of my friends and I try out different restaurants and various cuisines within Hamamatsu. Thanks to Prof Urano's initiative, I was able to take part in the Lake Sanaru International Ekiden Race last year. Sadly, the spread of Covid-19 has severely affected my travel plans this year.

Tell us about your future plans.

Apart from diagnostic haematology, I am very passionate about teaching. On completion of the course, I hope to go back to my institute in India equipped with new skills and knowledge that I acquired in Hamamatsu, and continue to work and teach residents and students there. Of course, I would like to continue maintaining a cordial relationship with HUSM and Japan.



▲インド・ペロールの母校にて、大学院生に血液学を教えているところ(2018年)

▲佐鳴湖国際駅伝大会(2019年5月26日)



▲三島スカイウォーク(2019年12月)

▲ぬくもりの森にて友達と

将来の夢や目標を教えてください

血液診断学の他に、教えることも大好きです。博士課程修了後はインドの母校に戻り、浜松医科大学で得た新しいスキルと知識を活かして母校の学生に教えたいと思っています。そしてもちろん、浜松医科大学や日本との友好関係も維持していきたいです。



▲ 尊敬する森田先生と(右が筆者)



▲ ボストンでのキャダバー研修(右端が筆者)



患者さんの気持ちを知る

私は平成22(2010)年に浜松医科大学を卒業後、浜松医科大学の臨床研修プログラムで研修を終了した後、浜松医科大学整形外科に入局しました。現在は整形外科のスタッフとして日々の診療に携わっています。

3年目から藤枝市立総合病院で一般整形外科を中心に多くの症例を担当し、その中で膝疾患やスポーツ傷害、特に関節鏡手術に興味を持ち、自分のサブスペシャリティとして深く学ぶようになりました。6年目からは大学に戻り、膝・スポーツ班のメンバーとして診療に取り組みました。浜松医科大学の整形外科では全国的にも早い時期から股関節鏡手術が行われており、現在でも習熟した医師が少ない手術の症例を多く経験できたことは自分にとって大きな経験となりました。キャダ



▲ 関節鏡手術に心血を注いでいます



▲ e-sports大会に参加(真ん中が筆者)

バー研修に参加させてもらうなど、自分の技術を磨く機会にも恵まれました。

整形外科医としての仕事をする傍ら、大学では約3年間にわたり救急部に在籍させていただきました。外科系救急ばかりでなく内科救急もたくさん経験でき、貴重な体験となりました。救急の当直をしつつ日常の整形外科業務を行うことは体力的には非常にハードなものでしたが、大変頼りになる救急部の先生方に助けられながらなんとかやり遂げることができました。

救急部に在籍中には患者さんの気持ちを理解するために2度の入院を経験しました。1度目は私が救急の当直中に自らが虫垂炎で入院するというマイナスの働きを見せ、救急部や外科の先生方には大変お世話になりました。5日間も絶食になったのはこの時が初めてでしたが、食事が摂れないことの辛さを痛感しました。2度目は子供と遊んでいて足を捻り骨折するという、なんとも情けないケガをしました。緊急で創外固定をしてもらい、自分の患者

さんの隣の部屋に入院しました。外来へは術後すぐに復帰できましたが、手術に復帰するには2か月以上かかり、まわりの先生方や患者さんにも大変な迷惑をかけました。自分が患者になってみると病气やケガのつらさがよくわかり、患者さんに対して以前よりも親身になって対応ができるようになったと思います。

令和2(2020)年はコロナウイルスの影響で日常生活も大きく変わりましたが、仕事の面でも会議はWebで行うことが当たり前になり、日本整形外科学会で毎年開催されていたスポーツ大会はe-sports大会に変更になりました。私は初めてe-sportsに参加したのですが、3対3で対戦するためにはゲーム機とソフトが3セット必要であることすら知らず、前日に購入してギリギリ失格だけは免れました。整形外科の分野でもロボット支援の人工関節置換術や3Dプリンティング技術を応用した手術などが普及してきています。時代の流れに遅れないようにすることはもちろん、リードするくらいの気持ちが必要だと感じました。

気づけば私も医師になって10年以上が経過し、責任のある立場になってきました。若手の先生や学生を指導したりする中で自分もまた教えられることが多く、日々勉強させてもらっています。現在は浜松医科大学整形外科のスタッフとして、紹介された患者さんを担当させていただいていますが、いつかはあの先生に診てもらいたいと言われるような医師を目指して今後も精進したいと思います。



卒業生

は

今

「卒業生は今」の
執筆者募集中!



こちらのQRコードから
ご連絡ください!



子どもの目線から看護を見る、発信する

今、大学の建物の4階にいます。この原稿を書いていると、鳩が羽飛んできて研究室の窓にとまりましたので、とても驚いています。地上で見かける鳥が、この高さまで飛べることを全く知らなかったからです。さて、少し驚きすぎました。私は、浜松医科大学を卒業後、7年間の臨床経験を経て小児看護学の助教となり、千葉大学大学院看護学研究科で10年目の夏を過ごしています。千葉大学では看護研究と実践を繋ぐこと、その双方が行き来する往還を大切にしており、取り組む研究は、看護学の学問としての発展と臨床実践への貢献の両者が重視されます。私自身の専門は、新生児集中治療室に入室する子どもたちと家族の看護です。最近、早産で生まれた子どもたちの脳幹機能の成熟と、連合する大脳、小脳の発達に着目しています。

研究の信頼性を高めるため、7年前より早産児行動評価法(The Assessment of Preterm Infants' Behavior(APIB))の研修を開始しました。研修では、胎児・新生児の中枢神経系の成熟過程を学び、指導の先生から実践トレーニングを受け、



▲ オークストラの練習が始まるのを待っている私のチェロ

自己トレーニングを継続します。新生児との相互作用を通じて反応と行動を観察し、環境への適応の程度、機能の分化の具合、体のエネルギーを見ていきます。早産で生まれた子どもたちは環境から受ける刺激により生理的変化を生じやすく、生命の危機にさらされるのみならず、成長に必要なエネルギーの消耗や長期的発達にも影響する可能性があります。一方で、環境から受ける感覚の入力と、それらに反応し対処する体験もまた成長発達に欠かせません。新生児集中治療室の中で、柔らかさと温かさをもたらしてくれるのは赤ちゃんの家族です。行動評価や研究を通して得た知見を、家族と共有しながら実践の形に変えていくことを目指しています。最近、大学内外の国際活動に携わる機会も増えました。新生児看護の情報を英語または日本語で伝達・発信するなど、新たな仕事に取り組んでいます。令和元(2019)年に開催された国際新生児看護学会は、心に残っている出来事のひとつです。日本から参加



▲ 早産児行動評価法の研修を受けているコロラド小児病院

予定の沢山の方々の発表支援事業に、担当者として関わる機会を頂きました。ポスター作成時のピアサポートと、専門家へのコンサルテーションを主軸とするこの事業が推進力となり、20名以上の看護の臨床家、研究者が日本から参加しました。私自身も支援事業を受けて、ポスター発表をしてみりました。

教育や研究、学会活動、執筆など、締め切りのある仕事に追われているのも現実です。そのなかで、大学時代から続けているチェロの演奏が支えとなっています。オーケストラの合奏に入ると気持ちがすっきりして、また頑張ろうと思うことができます。今は練習と公演が休止中ですが、再開を楽しみに待っています。

尊敬する先生方や先輩方、大切な仲間との繋がりがあってこそ、今、大好きな新生児看護を続けることができていると感じます。世界中では、毎年1500万人の子どもたちが早産で生まれる時代となりました。新生児看護学の領域は基礎教育の時間が圧倒的に不足しており、看護の知見も集積段階にあります。研究を通じて子どもたちの目線から看護を理解し、教育や実践の場でそれらを発信していくことが私の目標です。



▲ 国際新生児看護学会-2019年ニュージーランドでのポスター発表

浜松医科大学基金へご協力いただき、 心よりお礼申し上げます。

教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行っています。浜松医科大学基金を
基に、安心して医学・看護学の教育・研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を安定的に提供する
ことで、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育ててまいります。

寄附者ご芳名

令和2年2月から8月までにご寄附いただいた方で、お名前の公表をご了承いただいた方を五十音順にご紹介させていただきます。
なお、本学職員31名につきましては掲載を割愛させていただきました。

個人

青木 康郎 様	河崎 孝弘 様	原 田 勇 様
天野 元明 様	北村 公也 様	坂東 誠一 様
栗田 成毅 様	小出 幸夫 様	古屋 雄一郎 様
家田 貴子 様	石代 真敏 様	三浦 直行 様
池 田 勇 様	腰原 秀敏 様	水島 重徳 様
伊藤 すみえ 様	小 松 明 様	蓑島 伸生 様
上野 剛志 様	櫻町 俊二 様	宮 崎 素 様
遠藤 真琴 様	杉山 秀夫 様	望月 照之 様
大橋 弘幸 様	鈴村 佳弘 様	山崎 勝康 様
岡田 満夫 様	高 山 功 様	山下 富雄 様
小 川 浩 様	竹内 宏幸 様	山中 寿夫 様
小澤 佳世 様	津幡 佳伸 様	山本 博文 様
金 子 寛 様	寺 田 護 様	袁 文 涛 様
栢森 新治 様	戸田 準一 様	米 山 雅彦 様
加陽 直実 様	中村 陽史 様	
川北 かおり 様	名倉 康雄 様	

法人・団体等

一般社団法人 浜松市医師会 様
いはら腎・泌尿器シャントクリニック 様
医療法人社団新風会 丸山病院 様
医療法人社団千寿会 鈴木内科 様
株式会社 出雲殿互助会 様
株式会社 コー・プランニング 様
セキスイハイム東海株式会社 様
浜松医科大学同窓会松門会 様
山口ハート国際クリニック 様

ご寄附のお申し込みについて

電話、FAX、またはメール等でお名前とご住所をお知らせください。ご寄附に必要な書類をお送りいたします。浜松医科大学基金ホームページより、クレジットカードでのご寄附も受け付けております。

浜松医科大学基金ホームページ
<https://www.hama-med.ac.jp/kikin/index.html>

お問い合わせ先

浜松医科大学基金事務局 総務課広報室 広報・基金係
〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1
E-mail kikin@hama-med.ac.jp

TEL 053-435-2107 FAX 053-435-2112

編集 後記

大学の近代化改修もいよいよ大詰めとなってまいりました。私の所属する部署はすでに転居も終えリフォーム後の施設を堪能しているところです。さて、表紙にもありますが図書館も素晴らしいものに生まれ変わりました。その周辺には学生（のためだけではありません）が学習に利用できるようなスペースが非常に充実してまいりました。開学当時の状況だけをご存じの方におかれましては「何だこの依怙鼻根は」と思われる方もいるかもしれませんが、学生の成長こそが大学の発展の礎です。これからも応援のほどよろしくお願いします。

ニュースレター編集委員 T.I.



浜松医科大学マスコットキャラクター

はんだやまっぴー

原稿 募集

小誌をご覧になられたご感想やご意見をお寄せください。
各欄（「研究最前線」「海のむこうで」「大学ニュース」「寄稿」「卒業生は今」など）への投稿や本学に関連する写真を、随時、募集しています。
職員や学生だけでなく、広く関係者の方々からのご提案をお待ちしております。
誌面づくりに、ぜひご参加ください。

広報室 koho@hama-med.ac.jp

編集・発行

浜松医科大学ニュースレター編集部会

発行日

令和2(2020)年10月1日

お問い合わせ

国立大学法人浜松医科大学 総務課 広報室
〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111(代表)



浜松医科大学オンデマンド

<http://od.hama-med.ac.jp>



浜松医科大学

<https://facebook.com/HamamatsuUniversitySchoolofMedicine>



浜松医科大学医学部附属病院

<https://facebook.com/HamamatsuUniversityHospital>

